

用語解説

赤潮・苦潮

赤潮は、植物プランクトンの異常発生により海水が赤く変色するもの。苦潮は、海底付近に堆積したプランクトンの死がいなどの有機物の分解に酸素が消費されて酸素が乏しくなった海水が、水面近くに上昇して青白く見えるもの。ともに、魚介類などの死滅を招く。

あいち環境学習プラザ

県民一人ひとりが持続可能な社会の構築を目指して環境問題に取り組むことができるようにするため、環境学習の拠点として、愛知県東大手庁舎1階（名古屋市中区）に設置。環境学習のプログラムづくり、人づくり、ネットワークづくりを三本柱として、環境学習に関する様々な活動を支援。

あいち環境塾

資源循環に向けた産学行政の協働による取組を、県内各地域に展開するため、環境について多角的な視点から学ぶことができる会員制の連続講座（塾）。産学行政の各部門において、環境を基調とした地域づくりのキーパーソンとなりうる人材（リーダー）の育成及び人的ネットワークの構築を進めている。

愛知環境賞

愛知万博の開幕を機に、平成17年1月に創設。資源循環や環境負荷低減に関する企業や団体の優れた技術・事業・活動・教育の取組に対して表彰を行う。

愛知県リサイクル資材評価制度（あいくる）

循環型社会形成を推進するため、愛知県発注の工事で、リサイクル資材の積極的活用を目的としたリサイクル資材評価制度。

あいち資源循環推進センター

循環型社会づくりの産学行政の連携・協働拠点として、平成18年5月に設置。循環型ビジネスの事業化相談や技術指導など、県の施策を踏まえて循環ビジネスの事業化支援を行う。

あいち臨空新エネルギー実証研究エリア

愛知万博の理念・成果を継承し、最先端の技術を生かした実証研究を実施するとともに、県民の方々の新エネルギーに対する理解向上を図るための施設。

エコファーマー

たい肥などを利用した土づくりや、化学肥料や農薬をできるだけ使わないなど、環境にやさしい農業に取り組む計画を作成し、知事の認定を受けている農業者。

エコドライブ

不要なアイドリングをしない、急な発進・加速・減速をしない、無駄な荷物を積まない等の心がけにより、消費燃料を節約し、大気汚染物質や温室効果ガスの排出を削減する運転方法。

エコ モビリティ ライフ

環境（エコロジー）の「エコ」、移動の「モビリティ」、生活の「ライフ」をつなげたことばで、クルマ（自家用車）と電車・バス等の公共交通、自転車、徒歩などをかきこく使い分けて、環境にやさしい交通手段を利用するライフスタイル。

カーシェアリング

自分の車を持たずに必要な時に使用目的に合った車を自家用車と同じように手軽に共同利用するシステム。

外来種

自然分布範囲以外の地域または生態系に、人為の結果として持ち込まれた生物のこと。移入種、外来生物と同義。国外だけでなく国内の他地域から持ち込まれたものを含む。

拡大生産者責任

生産者が、生産した製品が使用され、廃棄された後においても、当該製品の適正なリサイクルや処分について一定の責任を負おうという考え方。

環境影響評価制度

環境影響の程度が著しいものとなるおそれのある事業について、事前に事業者自らが環境にどのような影響を及ぼすかについて調査、予測及び評価を行い、その結果を公表して県、市町村、県民などから意見を聴き、それらを踏まえてその事業を環境保全の見地からより望ましいものとしていく制度。

環境マネジメントシステム

企業などが自ら企業活動の中で、排出物の抑制やエネルギー消費の削減など環境負荷の低減を図るために数値目標、取組内容を定め、これに基づき環境配慮等の行動を実践し、その結果の点検、見直しを行い、さらに継続的な改善を図るという一連の環境管理体制のこと。

グリーン購入

製品やサービスを購入する際に、その必要性を十分に考慮し、購入が必要な場合には、できる限り環境への負荷が少ないものを優先的に購入すること。

ごみゼロ社会推進あいち県民会議

住民、事業者、行政が相互に連携しながら、一体となってごみゼロ社会の形成を推進することにより、公衆衛生、環境の保全、資源の有効利用を促進するために平成5年に設立。事業者団体、消費者団体、女性団体、市町村等で構成されており、ごみ減量、再資源化、不法投棄対策の3部会がそれぞれ活動している。

再生資源活用審査制度

事業者が産業廃棄物等を再生し、得られた製品を販売しようとする場合、県が事前の届出を受け、その製品の環境安全性などについて審査をする制度。

産業廃棄物処理業者の優良性の判断に係る評価制度

通常の許可基準よりも厳しい基準をクリアした優良な産業廃棄物処理業者を、都道府県等が審査して認定する制度。認定を受けた産業廃棄物処理業者は、許可の有効期限が延長されるほか、許可証に優良マークが表示されるなどメリットがある。

スマート・コミュニティ

情報通信技術を使って電力の流れを供給側・需要側のバランスを取り最適化するシステム「スマートグリッド」を基盤として、エネルギー利用を生活圏全体で最適にコントロールする次世代型のコミュニティのこと。

生態系

食物連鎖などの生物間の相互関係と、生物とそれを取り巻く無機的環境の間の相互関係を総合的に捉えた生物社会のまとまりを示す概念。

全県域污水適正処理構想

下水道、集落排水、コミュニティプラント、浄化槽などの污水処理施設の特徴や地域特性を勘案し、市街地や農山村地域を含めた県内全域の污水処理施設の整備を計画的・効率的に実施していくために市町村が作成した構想を、県がとりまとめたもの。

大規模行為届出制度

「自然環境の保全及び緑化の推進に関する条例」に基づき実施している制度。一定以上の開発行為に対して、事業者へ届出（国の機関または地方公共団体が行う場合には通知）を義務づけ、自然環境の保全と緑地の確保について事前に審査している。

多自然川づくり

河川全体の自然の営みを視野に入れ、地域の暮らしや歴史・文化との調和にも配慮し、河川が本来有している生物の生息生育・繁殖環境や多様な河川風景を保全・創出するために河川を管理する手法。

多量排出事業者

前年度の産業廃棄物の発生量が年間 1,000 トン以上又は特別管理産業廃棄物の発生量が年間 50 トン以上の事業場を設置している事業者。

知の拠点あいち

付加価値の高いモノづくりを支援する研究開発の拠点として、産学行政連携の共同研究開発や企業からの依頼試験等を行う「あいち産業科学技術総合センター」と先端分析施設の「シンクロトロン光利用施設」を、万博会場跡地（瀬戸市・豊田市）に整備。

パーク（サイクル）・アンド・ライド

自家用車（自転車）で自宅から最寄り駅（またはバス停など）まで行き、そこに駐車（駐輪）して、公共交通機関に乗り換えて都心部などの目的地に向かうこと。都心部などへの自家用車の流入を押さえることによって、二酸化炭素排出量の削減や渋滞緩和などの効果が期待される。

ミティゲーション

開発の際に自然への影響を回避したり緩和したりすること。ミティゲーションは、影響の回避、最小化、代償の順に検討することが重要。

藻場

一般に、水底で大型底生藻類や沈水植物が群落状に生育している場所を指す。藻場を形成する植物の種類により、アマモの生育するアマモ場、ホンダワラ類の生育するガラモ場などに区別される。

CASBEE（建築物総合環境性能評価システム）

Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency。建築物等の環境性能を評価・格付けする手法で、省エネや環境負荷の少ない資機材の使用といった環境配慮はもとより、室内の快適性や景観への配慮等も含めた建築物等の環境性能を総合的に評価するシステム。

ITS（高度道路交通システム）

Intelligent Transport System。道路交通の安全性、輸送効率、快適性の向上等を目的に、最先端の情報通信技術等を用いて、人と道路と車両とを一体のシステムとして構築する道路交通システムの総称。